

中日合作

日本语能力测试 2级模拟试题集

〔日〕 濑户口彩 衣川隆生
石崎晶子

- 日本权威命题专家命题
- 与“出题基准”完全对应
- 附答案、听力原文、录音带
- 日本语能力测试必备图书

. 59055
718



高等教育出版社



株式会社アルク

中日合作

日本語能力测试 2级模拟试题集

〔日〕 瀬戸口彩 衣川隆生
石崎晶子



高等教育出版社



株式会社アルク

前 言

由财团法人日本国际教育协会和日本国际交流基金会主办的、面向全球的“日语能力测试”从1983年起已实施了15年。中国教育部考试中心从1993年起面向社会公开报名。近年来,随着中日各领域交往的不断深入,赴日本学习、工作、考察、研修和到日资等相关企业就职工作的人数不断增加。为了取得“日语能力测试”这一必备的等级资格,各类参加考试人员十分踊跃,报考人数年年增加。

为此,高等教育出版社与日本株式会社アルク合作出版了《日语能力测试模拟试题集》。株式会社アルク在日语教材和日语能力测试用书方面颇具专长,特别是为配合每年一度的“日语能力测试”,该社每年9月份在日本主办一次全日本范围内面对外国人的、唯一的“日语能力测试模拟考试”。这一考试在日本影响较大,该社出版的“日语能力测试”类图书也颇受考生欢迎。本套试题集的试题全部由多年从事“日语能力测试”教育和研究的日本专家仿照“日语能力测试”标准试卷命题,试题具有较高的权威性和仿真性。

本套试题集包括《日语能力测试1级模拟试题集》(附2盘录音带)、《日语能力测试2级模拟试题集》(附2盘录音带)、《日语能力测试3·4级练习模拟试题集》(附2盘录音带)、《日语能力测试1-4级听力训练与自测》(附2盘录音带)共4册,将于1999年8月出版发行。

《日语能力测试1级模拟试题集》包括三部分内容:第一部分为参加1级测试的各项准备和对策,其中包括对历年出题特点与题型的分析、解题方式及技巧等;第二部分包括3套完整标准的1级模拟试卷及3套标准答题纸;第三部分包括3套标准模拟试卷的答案及听力部分原文材料。本书配有2盘听力录音带。

《日语能力测试2级模拟试题集》包括三部分内容:第一部分为参加2级测试的各项准备和对策,其中包括对历年出题特点与题型的分析、解题方式及技巧等;第二部分包括3套完整标准的2级模拟试卷及3套标准的答题纸;第三部分包括3套标准模拟试卷的答案及听力部分原文材料。本书配有2盘听力录

音带。

《日本語能力测试 3·4 级练习模拟试题集》包括四部分内容:第一部分为 4 级测试试题,包括文字、词汇、听力、阅读理解、语法;第二部分为 3 级测试试题,包括文字、词汇、听力、阅读理解、语法;第三部分包括 1 套 3 级标准模拟试题和答题纸;第四部分包括 3·4 级测试试题答案、听力试题原文材料和 3 级模拟试题答案及听力试题原文材料。本书配有 2 盘听力录音带。

《日本語能力测试 1-4 级听力训练与自测》包括三部分内容:第一部分为听力综合测试,其中包括“日本語能力测试”中经常出现的 9 种题型(按照 1-4 级的难易顺序进行排列)。此外,还将这些测试题分为“看图回答”和“无图只听回答”两大类;第二部分包括与“日本語能力测试”的 3 级、2 级、1 级听力水平完全相对应的各种听力测试题,其解题方法与解题形式与“日本語能力测试”完全相同;第三部分包括本书所有听力测试题的答案及原文听力材料。本书配有 2 盘听力录音带。

本套试题集既可供广大考生复习备考使用,也是广大本科生、研究生、成人院校学生以及其他各类日语学习者检查、评估自身日语水平的理想参考书。

愿本套试题集成为读者学习的益友,成功的桥梁。

高等教育出版社 株式会社アルク

1999 年 7 月

目 次

合格への準備と対策

文字・語彙	6
聴 解	11
読解・文法	15

2 級模擬テスト 第 1 回

文字・語彙	22
聴 解	27
読解・文法	32

2 級模擬テスト 第 2 回

文字・語彙	44
聴 解	50
読解・文法	57

2 級模擬テスト 第 3 回

文字・語彙	70
聴 解	76
読解・文法	82

解答用紙

第 1 回	99
第 2 回	101
第 3 回	103

日本語能力試験の構成及び認定基準	105
------------------	-----

日本語能力試験

合格への準備と対策

◆出題の傾向と分析

◆解き方のポイント

QB357/02

はじめに

「1000字程度の漢字の読み書きができ、6000語程度の語彙を理解して一般的な話題について聞いたり話したりできる」というのが、日本語能力試験の2級を認定する基準です。また、その目安として、日本語を600時間程度学習して、中級の日本語コースを修了したレベルといっています。

試験は、「文字・語彙」「聴解」「読解・文法」の三つに分かれています。試験時間は全体で145分で、「文字・語彙」が35分、「聴解」が40分、「読解・文法」が70分です。「聴解」は平成4年度までは35分でしたが、平成5年度から5分長くなって40分になりました。配点は400点満点で、「文字・語彙」が100点、「聴解」が100点、「読解・文法」が200点です。問題はすべて「四択」といって、四つの選択肢の中から正しいものを一つ選ぶようになっています。この問題集は、過去の問題と出題基準を参考にし、実際の2級の試験の形式にそって作られています。問題の形式や時間配分に慣れておくことは、とても大切です。試験を受ける前の練習としてこの問題集を使うときは、決められた時間どおりにやってみましょう。合格するためには、全体の7割ぐらいの得点が必要です。400点の7割ですから280点です。280点以上取れないときは、どの分野の得点がどのくらい足りないか調べてください。そして、実際の試験を受けるまでに、その苦手な分野をしっかりと勉強するようにしましょう。

文字・語彙

2級で出題される「文字」の問題は、これまで2題40問です。問題Iが漢字の読み方、問題IIが漢字の書き方で、それぞれ20問ずつとなっています。「語彙」も2題です。問題IIIは空所に適切なことばを補う問題で15問、問題IVはことばの意味や使い方の簡単な説明を読んで、そのことばが何かを選ぶ問題で、10問です。

では、それぞれの問題についてもう少し詳しく見ていきましょう。

問題 I

■問題の形式と傾向

問題 I では、①表記に関するもの、②音読みか訓読みかを問うもの、③清濁の区別を問うもの、④難しい訓読みに関するものがよく出題されています。また、最近の傾向として、送り仮名の同じもので、さらに問題文にあてはめても意味が通るものが選択肢に使われるようになりました。では、具体的な例を見てみましょう。問題の形式は次のようになっています。

例) 問題 I 次の文の下線をつけたことばは、どのように読みますか。その読み方をそれぞれの 1・2・3・4 から一つ選びなさい。

問 1 デパートの店員₍₁₎に品物₍₂₎についていろいろ質問₍₃₎しました。

- (1) 店員 1 てんにん 2 てにん 3 てんいん 4 ていん
(2) 品物 1 しなもの 2 しなぶつ 3 ひんもの 4 ひんぶつ
(3) 質問 1 しちとい 2 しちもん 3 しつとい 4 しつもん

答え (1)3 (2)1 (3)4

■準備のポイント

(1)は①表記に関するものの例です。このタイプでは、「う」「ん」「っ」「ゃ」「ゅ」「ょ」などの正しい書き方が選べるかどうかポイントです。

(2)と(3)は②音読みか訓読みかを問うものの例です。このタイプでは、実はその語彙を知っていればまずまちがえることはありません。そこで漢字から意味はわかっても、あまり聞いたことのないような語彙が選ばれるようです。語彙を知らなければ、音と訓の組合わせから考えるしかありません。熟語の読みには、「音+音」、「音+訓」、「訓+音」、「訓+訓」の四通りがありますから、四択にはちょうどよいのです。一番多いのは「音+音」、それから「訓+訓」です。

「音+訓」、特に「訓+音」という読み方はあまりないので、迷ったら確率の高い「音+音」にしておくというののもいいかもしれません。しかし、あまりないものだからこそ出題される可能性もあります。また、漢字によっては音読みや

訓読みが二つ以上あるものもありますから、要注意です。たとえば、「物」には、「荷物（にもつ）」など「もつ」という読み方もありますし、後にくることばによつては「物質（ぶっしつ）」など「ぶつ」が「ぶつ」となる場合もあるのです。特別な読みにはふだんから気をつけましょう。

清濁の区別を問う問題も毎年かならず出題されます。このタイプでは「は」「ば」「ぱ」の区別など、濁点、半濁点のあるなしが問われます。難しい訓読みに関するものでは、口語ではあまり使われないものが多いようです。

問題II

■問題の形式と傾向

問題IIには、①形がよく似ているもの、②同じ音や訓をもつ漢字や熟語の区別、③難しい訓読みの漢字などがあります。例を見てください。

例) 問題II 次の文の下線をつけたことばは、どのような漢字を書きますか。

その漢字をそれぞれの1・2・3・4から一つ選びなさい。

問1 かいがん⁽¹⁾に面したこの都市には冬でもかんこう⁽²⁾客が多い。

(1) かいがん 1 海岸 2 悔岸 3 海岩 4 悔岩

(2) かんこう 1 観光 2 感光 3 刊行 4 慣行

答え (1)1 (2)1

■準備のポイント

(1)は①の形がよく似ているものを区別する例です。このタイプではへんやつくりの違いだけでなく、なんとなく形が似ているという字も要注意です。(2)は②同じ音や訓をもつ漢字の区別を問うものの例です。同音異義語と呼ばれるものも含まれます。へんやつくりから意味がわかる場合もあります。

問題Ⅲ

■問題の形式と傾向

問題Ⅲは_____に適切なことばを補う問題です。問題文が2文ある場合はたいてい接続詞に関するもので、それ以外は1文です。会話の一部であることもあり、その場合は、あいさつなどの決まった言い方を問うものです。例を見てください。

例) 問題Ⅲ 次の文の_____の部分に入れるのに最も適当なものを、1・2・3・4から一つ選びなさい。

(1) インスタント・ラーメンを_____したのは日本人だ。

1 創作 2 創造 3 発見 4 発明

答え 4

問題には次のようなものがあります。

- 1 意味や形がよく似た語彙の区別を問うもの
- 2 複合語などの意味の違いを問うもの
- 3 慣用句や決まった表現で、いつもいっしょに使われることばを選ぶもの
- 4 副詞などの用法に関するもの
- 5 外来語に関するもの

■準備のポイント

まず問題文をよく読むことです。わからないときは、選択肢がヒントになることもあります。空所に選択肢を入れて読んでみてください。違うと思うものから消していき、意味が通るものを探します。意味や形が似ているものの区別は、辞書などで例文を見て整理しておくといいいでしょう。

問題Ⅳ

■問題の形式と傾向

問題Ⅳはことばの意味や用法について書かれた問題文を読んで、そのことばを選ぶ問題です。辞書を引くときの逆と考えることができます。ですから、選択肢を見て、問題文がそのことばを辞書で引いたときの説明になっているものを選びます。

例) 問題Ⅳ 次の(1)から(10)は、ことばの意味や使い方を説明したものです。その説明に最もあうことばを1・2・3・4から一つ選びなさい。

(1) 政治家などが、多くの人の前で自分の意見や主張を述べること。

1 演説 2 演劇 3 出演 4 主演

答え 1

問題には、問題Ⅲの1から5に加え、親戚関係を示すことば、何かを数えるときに使うことば、擬音語・擬態語なども出題されます。

■準備のポイント

新しい語彙を辞書で調べるとき、そのことばについての説明をノートなどに写していますか。ことばを説明する文にはパターンがあります。このパターンに慣れておくといいと思います。意味がわかっていることばを言い換えてみたり、自分のことばで説明する練習も役に立つでしょう。問題Ⅳは、そのことばを知っていれば難しくないのでありますが、知らなかった場合は選択肢から考えるしかありません。4つの選択肢から知っているもの、明らかに違うものを消していった、残ったものを答えとします。

■注意点とアドバイス

35分で65問解かなければなりません。単純に計算しても1問30秒ちょっとです。考え込んでいたのでは、間に合いません。あとでもうちょっと考えたいというものがあれば、とりあえず答えを出して、問題用紙に印をつけておきます。

時間が余ったら、印のあるものを見直します。わからないからといって、空白にしてはいけません。確率は4分の1ですから、マークシートをぬっておけば当たるかもしれないからです。漢字が苦手な人は、問題Ⅲや問題Ⅳから先に解いてもいいでしょう。

文字と語彙は、別々に勉強するよりいっしょに勉強するほうが効果的です。新しいことばを覚えるときは、そのことばを漢字で書けるようにしましょう。

聴 解

日本語能力試験2級の「聴解」は問題ⅠからⅢまで8～9問ずつの3題で、全体では24～25問、試験時間は40分です。

■問題の形式と傾向

問題Ⅰは、絵を見ながら男女の会話や指示などを聞き、正しい答えを選ぶものです。問題ⅡとⅢには絵はありません。どの問題もはじめに質問があり、それから会話などが始まります。その後、質問がもう一度繰り返されます。問題Ⅱ、問題Ⅲでは、最後に選択肢が一度だけ読み上げられます。問題の最初に、登場人物や場面についての簡単な説明、音楽や効果音が入る場合もあります。問題Ⅱと問題Ⅲは形式的に見れば同じですが、問題Ⅱは必要な情報だけを選択して聞く問題、問題Ⅲは全体を通して聞くことが必要な問題といえると思います。

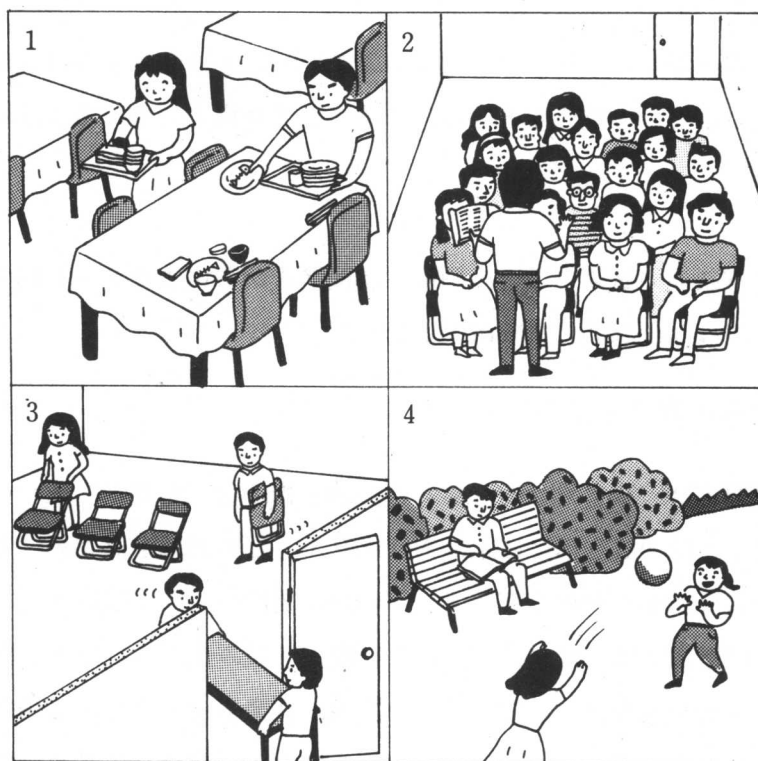
例を見てください。例1)は問題Ⅰと問題Ⅱの例です。例2)は問題Ⅲの例です。

例1) ーリーダーがこれからの予定を説明しています。2班の人は、このあと何をしますか。

ーえー、午後の予定を説明します。食事の後は、自由時間ということになっていますが、1班と3班の人は、後片付けの当番ですから、よろしくお願いします。それから、2班の人は、この部屋を3時からの全体ミーティングで使いますから、テーブルを廊下に出して、イスを並べてください。それ以外の班の人たちは、3時まで自由時間です。何か質問はありませんか。なければ、これで解散します。

— 2 班の人は、このあと何をしますか。

問題 I では、問題用紙の絵を見て、答えを選びます。



問題 II では、質問の後に次のような選択肢が読めます。

- 1 食事の後片付けをします。
- 2 全体ミーティングをします。
- 3 テーブルを廊下に出して、イスを並べます。
- 4 自由に過ごします。

答え 3

例 2) 一男の人と女の人が話しています。男の人は、どうすることにしましたか。

女：ねー、もう起きて。いいお天気よ。

男：うーん。もうちょっと寝かせてくれよ。

女：だって、もうお昼なもの。

男：今週、今日しか休みがないんだ。

女：一日しかない休みだから、有効に使いましょうよ。

男：有効になって、君の買物につきあうことかい。

女：あら、買物じゃなくたっていいのよ。どこか行きましょう。

男：どこ行っても混んでるだろ。よけい疲れちゃう。出かけるったってさ、運転するのはぼくだし。

女：わかったわ。じゃあ、一人で映画でも見てくる。

男：悪いけど、そうしてくれる？ 来週はいっしょに出かけるから。

一男の人は、どうしますか。

一 1 家でもう少し寝ます。

一 2 女の人と買物に行きます。

一 3 女の人と車で出かけます。

一 4 女の人と映画を見ます。

答え 1

例1)は、「2班」についての指示だけを正確に聞き取る問題です。これに対して、例2)では、会話全体を最後まで聞かないと、男の人がどうすることにしたのかがわかりません。これが、問題IIと問題IIIの大きな違いです。

問題IIでは、質問の答えとなる部分だけに集中して、関係ない部分はむしろ聞き流すようにしなければなりません。この聞き方を①の聞き方とします。問題IIIでは、細かい点まで正確に聞き取るというより、全体の流れや結論をつかむような聞き方をすることが必要になります。これを②の聞き方としておきましょう。問題IIIでは、「男の人はどうすることになりましたか」のような質問以外に「男の人はどうして～することにしたのですか」のような理由をきく問題もよく出ています。

■準備のポイント

試験を受けるまでに、それぞれの問題の形式に慣れておくことが大切です。①の聞き方では、質問を聞いて、何を聞き取ればよいか予想できるようにしておきましょう。「いつ」の問いには時間や日付け、「いくら」には値段と決まっています。「何曜日」と聞かれていたら、曜日を聞き取ります。会話の中に答えがはっきり出ていない場合もあります。1時30分発の電車に乗る人が電話で、

「30分後に着く」と言っていたら、着く時間は何時でしょうか。このような問題では、頭の中で簡単な計算をしなければなりません。難しいようですが、これは実際の場面ではよく行われることです。似たような問題で何度も練習すれば、要領がつかめると思います。

②の聞き方では、会話などの流れに注意して聞きます。結論に関する問題では、結論というのは最後のほうで述べられていることが多いので、後半を特に注意して聞きます。はじめに結論を述べ、後でその理由を言う場合もありますが、そのときは「結論を先に言いますと」など前置きがあるのが普通です。このような前置きがあったなら、その直後に何が述べられているか聞いてください。3～4人で話し合っているような場面ではいくつかの意見が示されたのち、結局どの意見にみんなが賛成したか、どうまとまったかが問われます。司会者が結論をまとめるときの表現にも注意しましょう。理由に関する問題では、いくつも理由らしいものが出てくるので、本当の理由が何か判断しなければならないことが多いようです。

問題IIや問題IIIでは、メモを取ってもよいことになっています。簡単な数字などは、書き取ってもよいでしょう。書くことで、聞くことに集中できなくなることもありますから、メモは必要なことだけにします。

■注意点とアドバイス

問題と問題の間にはポーズがあります。問題Iでは、選択肢としてどんな絵があるか、ざっと目を通しておきましょう。絵が四つある場合には、どこがどう違うのか考えてください。一つの絵やグラフの中に1から4の番号がついている場合には、その番号が何を指しているのか見ておきます。

問題IIと問題IIIでは、選択肢が一度しか読まれないので、それを聞きながらマーク・シートをぬりつぶさなければなりません。間違えて消すときに時間がかかるので、自信がないときはあまり強く書かず、軽く印をつけるくらいにしておきます。最後まで聞いて、やっぱり「これだ」と思ったら、急いでぬりつぶすようにします。

わからない問題があっても、いつまでも考えてはいけません。次の問題もできなくなってしまうからです。次の問題が始まることを示すチャイムが鳴ったら、気持ちを切り替えて新しい問題に取りかかってください。

読解・文法

日本語能力試験 2 級の「読解・文法」の分野は、平成 5 年度に後半の出題の形式と傾向が大きく変わりました。前半の長文の総合問題 2 題（問題 I、問題 II）は以前とほとんど同じです。短い文章や会話を読んで後の問いに答える短文の読解問題（問題 III）も形式・内容に特に変化はありません。ただ、選択肢に絵や図表、グラフを用いたものが 1～2 題必ず含まれるようになりました。大きく変わったのは、これまで主に文法に関する小問が約 30 問ぐらい出されていた問題 III です。この部分は三つに分かれて、文法よりむしろ短い文の読解に重点が置かれるようになりました。短い文の空所に適当な語を補う問題（問題 IV）、主に文末の表現を選んで短い文を完成する問題（問題 V）、少し長めの文や、一まとまりの文を読んで空所に要点となる表現などを補ったり、意味が通るように文と文を接続したりする問題（問題 VI）の 3 題です。

それでは、それぞれの問題についてもう少し詳しく見てみましょう。

問題 I・II

■問題の形式と傾向

問題 I と問題 II は、800 字～1200 字程度の長文を読んで後の問いに答える総合問題です。平成 5 年度と 6 年度を見ると、2 題のうち 1 題はかなり短いものになっています。また、内容では 1 題はエッセイなどの軽い読み物、もう 1 題は自然科学に関する文章や論説文が選ばれているようです。後の問いは平成 4 年度までは 8 問ずつ計 16 問でしたが、平成 5 年度からは 7 問か 8 問になり、問題 I と問題 II で計 15 問です。問いには次のようなものがあります。

I 文章の一部分に関するもの

①空所に適当な表現や接続詞などを補う問題

問題文の例）（ ）の中に入る適当なことばを選びなさい。

（ ）に入ることばとして適当なものはどれか。

②難しい表現について、意味や内容を考えて言い換える問題

問題文の例）「 」を別の表現でいうと、この場合次のどれが近いのか。

「 」とは、この場合どういう／どんなことか。

③「コ・ソ・ア」などが指示する内容について答える問題

問題文の例) 「それ」とは、何を指しているか。

「こんなとき」とは、どのようなときか。

④はっきり書かれていないことについて、動作の主体や理由などを読み取って
答える問題

問題文の例) 「 」とあるが、だれがそうしたのか。

「 」とあるが、なぜか。

「 」という表現を筆者はどんな気持ちでいったと思うか。

2 文章の構成(段落など)に関するもの

問題文の例) [] の部分が指す内容と合っているもの／図を選びなさい。

第二段落で筆者がいちばんいいたいことは何か。

3 文章全体に関するもの

問題文の例) 筆者はどんな気持ちでこの文章を書いたと思うか。

この文章で筆者がもっともいいたいと考えられることは何か。

この文章に題をつけるとすれば、次のどれがもっとも適当か。

筆者の職業は何か。

1と2は表現や、段落と段落の関係などについて正確な読み取りを必要とする問題です。3は文章の主題や要旨を問うもので、大体いちばん最後の問題になっています。この二つのタイプの問題に答えるには、次の準備のポイントで述べるような、二つの全く違う読み方の練習が必要になります。

■準備のポイント

長文の読解問題では、細かい点まで正確に読み取るという読み方と、全体をざっと読んで、筆者のもっともいいたいことや文章の書かれた目的をつかむという読み方が要求されます。この二つの読み方には別々の練習が必要です。

1や2のタイプの問題については、問題集などで似たような問題をたくさん解いてみるのがいいと思います。そうすると、だんだん問いの答えが本文のどこにあるのか、どうやって探せばいいかわかってきます。たとえば、1の①の問題では入れてみて意味が通るものを選べばいいし、③の問題では直前を見